



ねらい

見たこと聞いたことを正確に伝え、仲間の説明に耳を傾ける活動を通じて、コミュニケーションの力を高めます。

対象

小学校高学年から大人まで

人数

1グループ6人～8人

時間

1時間30分程度から2時間

場所

どこでも

準備

原始火おこし用具一式【自然の家で準備】、壁

事前準備

- 子どもたちから見た正面の少し離れたところに壁を置き、壁の前に火おこしの道具を準備します。
(原始火おこしの道具は自然の家にあります)
壁の裏には、実演・説明用として1セット準備します。

実際の活動

- ルール：壁の裏で、道具の作り方から火ができるまでを実演しながら説明します。
壁の裏なので、みんなからは見えないし、説明も聞こえません。
説明は、1人ずつ交代で、1分間だけ見聞きすることにします。
一通り説明が終わったら、グループで、一人ひとりが壁の裏で見・聞きした情報を発表し合い、道具づくりから火おこしまでのプロセスをまとめます。
みんなの考えがまとまったら、火おこし(道具づくりから)をはじめます。
- グループ内で、実演・説明を、見聞きしに行く順番を決めます。
- 指導者が壁の裏で、火おこしの道具作りから、火ができるまでを実演しながら説明します。(約15分間)
グループから1人、最初の子どもが、壁の裏で、実演を見ながら、説明を聞きます。
他の子はグループで待っています。
1分経ったら、2番目の子に交代します。
グループで待っている間、みんなで、実演を見てきた子の話を聞きます。
実演の火がおきるまでに、全員が2回は実演を見れます。
- 実演が終了したら、グループ内で、もう一度最初から(道具作りから)火がおきるまでに必要な道具・順番などの情報を整理します。
全員の考えが一つにまとまったら、火おこし(道具づくりから)をはじめます。



留意点

- 見たこと(火のおこし方や使う道具など)を正確に仲間に伝えることができているか、得た情報をもとにグループ内で話し合い、共通理解が図られているか、ということが評価のポイントになると思います。

